

## 「世界平和の祈り」は永遠なり

2010年5月16日 於：神奈川集会

### 「世界平和の祈り」は永遠なり

その人その人の心境によって、同じ信仰を持っていてもずいぶんと違うもので、私なども、昌美先生を熱烈に信仰している人から見たら、まったくの異端者に見えるようです。「森島さんは、昌美先生に反逆するダイバダッタだ」とののしられたことが、何度あったことか。昌美先生は「人即神也」と宣言するように教えておられるのですから、私に対しても「森島さん即神也」と言ったらいいのに、と思うのですが、「それはできない」とその人は言うのです。それでは、その人自身、昌美先生の教えを守っていないではないか、と私は言いたいのです。自分が昌美先生の教えを守らず、自分に都合のよいところだけを使って、私を「ダイバダッタ」と言うのは、はなはだ矛盾している、と思うのです。

宗教に敵があってはなりません。少なくとも、私には敵はありません。

ところで、「素直な生き方」という問題に対して、ここでお答えしておきましょう。

かつて「白光真宏会で決まったことに対しては、それに従うことが素直な生き方だ」と、五井先生のお言葉を例にして説明された方がいらっしゃいました。

五井先生がご在世中に会で決めたようなことは、五井先生の教義に関する根幹的な問題ではなくて、会の組織としての運営のあり方や行事に関する枝葉の問題なのです。いくら会で決まったからと言って、「五井先生、このたび世界平和の祈りよりももっとすぐれた祈り方や方法が見つかりましたので、会としてはそれをしたいと思います。五井先生も従って下さい」と、理事長が五井先生に言ったら、即座に「何を考えているんだ。バカヤロウ！」と五井先生に一喝され、「駄目だ」と否定されるでしょう。

素直と服従とは、似てはいますが、まったく違う意味なのです。

旦那さんが妻に「これから、オレは泥棒に出かけてくるぞ」と言ったら、「それでは、支度しなくちゃいけませんね。あなた、大風呂敷にしましょうか？ それとも小風呂敷にしましょうか？」と妻が答えた、そのように妻が夫に従うことが素直な生き方である、とまじめに説いている宗教者がいますが、こんな妻の行為が素直な生き方であるわけがありません。そんな時には、夫が泥棒に行かないように必死で注意し、警察にかけこんでも、夫の誤った行為を止めるというのが、真実の素直な行為と言えるのです。それが真実の愛でもありましょう。

ですから、会の言うことを何でもかんでも無批判に受け入れて、自分の頭で判断せずに、そのまま従うことが素直な信仰だと思っていたとしたら、大変な誤りなのです。そうした誤った信仰が、社会で事件を起こす邪教集団を作ってゆくのです。五井先生の教えは、信

者を無批判にさせ、各自の判断力を失わせ、盲従服従を強要するような教えではなく、人々を自由にさせる宗教なのです。

「昌美先生の教えが正しい」と信じるのはその人の自由ですが、「会で決めたことには素直に従いなさい」と、何の理論的な説明なしで他人に説得したところで、知性的な人々が納得するはずありません。「ただ信じなさい」と言ったところで、そんな無理論の宗教が広まるはずがありません。素直とは、「真実に直くあれ」ということで、「業想念に妥協しろ」という意味ではないのです。

また、「世界平和の祈りも、我即神也の印も、人類即神也の印も、今の時代には必要なものと信じております。将来的には、みんな消えていくものと思っております」とおっしゃる方もいらっしゃるようですが、少し私の見解と異なっている点を申し上げます。

それは、「世界平和の祈りは消えてゆく姿ではない」ということです。

「世界平和の祈り」は、地球史上で最初で最後の真の祈り、であるのです。神の御心でないものは、すべて消えてゆきます。しかし、神の御心は永遠に消えることはありません。ですから、神の御心である「世界平和の祈り」は、この地球が平和になったら消えるものではなくて、地球が平和になった後も永遠に唱えられる祈りであるのです。

「（百年後に）世界人類が平和になりますように」という祈り言であったら、世界が平和になったら、その祈り言は不要な言葉になります。しかし、「世界人類が平和でありますように」とは、「（今から永遠に）世界人類が平和でありますように」という意味を含んだ祈り言なので、地球が平和になった後も、地球人類は「世界人類が平和でありますように」と永遠に祈り続けるのです。

地球よりもずっと前に平和な世界を実現させ、今では地球を天空のはるか彼方から見守っている宇宙人たちも、空飛ぶ円盤の中で「世界人類が平和でありますように」と祈っているのです。

とにかく常に思うことは、「皆さんに五井先生の本をもっとよく読んでいただきたいな」ということです。五井先生の本をすべて読んだくらいで、すでに分かったつもりになってはいけません。何度も何度も、五井先生の本がボロボロになるまで読んで、ボロボロになったら、また新しく本を買い換えて、その本もまたボロボロになるまで繰り返し繰り返し読んでもらいたいものです。

## 「世界平和の祈り」は永遠の祈り言

五井先生の教えの特長の一つは、教義もお祈りの言葉も、分かりやすい現代語で書かれていることなんです。これは、何と言っても私たちにとっては有り難いことなのです。他の宗教を研究しますと、新興宗教と言われている宗教団体の教えも、浅い歴史を補うために権威をつけようとして、この現代の時代に、わざわざもったいぶった古い言い回しを使ったり、難しい言葉を使ったり、漢文を使ったりしている宗教団体が多いのです。平成の今の時代に、平仮名が無かった漢文の時代の表現を使ったり、古事記の時代の表現を用いることはないのと思います。どうして、現代語のやさしい表現でお祈りしてはいけないのでしょうか？ 現代語では神様に通じない、とでも思っているのでしょうか？

もちろん古い歴史のある宗教では、古い言葉を使っても、それは結構なんです。たとえばキリスト教は二千年も前に現れた宗教なんですから、言葉が古くてもそれは当たり前で、そのほうが自然なんです。ですから、聖書は、文語訳聖書のほうが現代語訳聖書よりも格調が高く、ひびきも美しいので、ずっといいんです。現代語訳では高い格調が出せないんです。仏典の場合も、漢文の音読みや梵語で読むと、なんともいえない深い味わいが感じられるものです。「ナムカラタンノウタラヤアヤア」「オンバラダハンドメイウン」なんていう梵語も、ふつうの人にはさっぱり訳が分からないで聴いているだけけれど、なんとなくご利益があるように感じられる。神道もそうですね。「祓いたまえ、清めたまえ、守りたまえ、幸（さき）わえたまえ〜かしこみかしこみ、も〜まう〜す〜」という祝詞を聴いていると、古代の平安な時代に戻った気分がするものです。だから、古い歴史のある宗教は、言葉が古くてもそれが自然なんです。

でも、現代に生まれた宗教は、現代人を救う目的で現れたんだから、現代語で教義を書くべきであるし、お祈りにしても、現代人に分かりやすい現代の言葉で書かれるべきなんです。言葉が難しくて分からないと、すべての人を救うことはできません。仏教学者のように、難しい言葉を一生かけて翻訳しているような、そんな悠長なことを一般大衆はやっていられないんです。ですから、現代に現れた五井先生の教義と「世界平和の祈り」は、幼児でも分かる、誰にでも分かりやすい現代語で書かれているのです。しかも、奥が無限に深く、どこまで行っても計り知れないほど深い深い境地がどこまでも無限に続いているんです。この教義とお祈りは、最初で最後の真の教えとして、五井先生を通して大神様から授けられたのであって、最終の教えなのですから、もうこれ以上の教えは二度と現れないんです。それを思いますと、「五井先生は、なんという偉大な宗教者なんだろう！」と感嘆せざるをえません。

「世界人類が平和でありますように」というたった一言の祈りの中に、仏典の空の奥義も、聖書の愛の精神も、すべての過去の宗教の教えが言い表わされているのです。すべての宗教の深い意味が理解できてきて、すべての宗教の教祖のお心が現代によみがえって来るのです。そして、今では過去からのすべての聖者が「世界平和の祈り」に結集してまい

りまして、「世界平和の祈り」を祈る人のところには、必ずその大光明靈団が靈光を放射して下さり、世界を平和にすると同時に、祈る人自身の神性を開発し、より善き運命へと導いて下さるのです。現代には、現代にふさわしい祈り言を祈るのが一番いいのです。

今に見ていてご覧なさい。古い言葉や古い言い回しに固執している新興宗教団体は、今は現世利益を宣伝して信者を集め隆盛を誇っていても、次第に伸び悩み、だんだんと信者が減ってゆき、ついには消えてゆく運命にあるのです。百万人以上の信者数を誇っている宗教団体も、「世界人類が平和でありますように」という祈りを理解できなければ、いずれは消えてゆくことになるのです。私は他の宗教団体の悪口を言っているのではありません。将来の宗教界の予言を述べているのです。宇宙神のみ心に合わない古い波動は、新陳代謝のように自ずと消えてゆくのは法則として定まっていることなのです。

それでは、「世界平和の祈り」も、一千年後、一万年後には、やはり古くなって使い物にならないのかと申しますと、そうではないのです。「世界平和の祈り」は最後の祈りなのですから、一千年後も一万年後も、現代と同じく生き生きと使われる祈り言であるのです。「世界が平和になったら、もう世界平和の祈りも必要なくなるんじゃないの？」と思う人もいるでしょうが、この地球界で平和が確立した後も、この「世界平和の祈り」は永遠に使われてゆくんです。なぜならば、「世界人類が平和になりますように」ではなく、「今から永遠に、世界人類が平和でありますように」という意味の祈りであるからです。

## 自然で無理のない祈り言

宗教の祈りも、自然な食物を自然な形で摂るように、やはり自然な祈り言であるべきです。必要もないのにビタミン剤を過剰に大量摂取すれば体に悪いように、念の力を強める念力行や矛盾を含んだ行は不自然であって、自己の思い通りにならないと心が乱れたり、二重人格者のように矛盾した言動になって、周囲に変な雰囲気をまき散らすようになります。不自然な祈り言や行法は不自然な人格を作り出します。何事も方法を定める時には、「どちらがより自然か？」と直感的に判断して、より自然な方法を選ぶことがよいのです。

「世界人類が平和でありますように」という祈りは自然な祈り言です。不自然なところはありません。世界平和を神に熱望している人間の祈りが素直に言葉になった祈り言です。人類が争い合っている現在、人類の争いを止めるのは神しかおりません。親神様に人類の平和を願う祈りは神の子の人間として自然です。

「世界は平和である」と言ったら、これは不自然です。今は、肉体世界はまだ平和にはなってはいないからです。「私は神である」と宣言することも不自然です。宣言するにはまだ早過ぎるからです。

このように考えますと、「世界平和の祈り」は 真実に自然な祈りであることがお分かりでしょう。自然の声に耳を澄まし、自然な「世界平和の祈り」を祈ってゆくとき、人類の本心は自然に開いてゆくのであります。「世界平和の祈り」を祈っておりますと、非常識なふるまいがなくなり、二重人格のように矛盾した言動が消えてきます。常識的で当たり前でいて、心が乱れることがなく、いつも明るくて、言動に矛盾がありませんから、人から信頼されるようになります。「世界平和の祈り」を祈っている人々が、それを実証して下さいます。

### 「世界平和の祈り」は唯一最高の祈り

98年には、唯一会のホームページを開設して、「世界平和の祈り」を唯一最高の行としている私たちの存在を皆様に公開しました。白光真宏会の会員の中に、十年一日のごとく「世界平和の祈り」だけを行じ続け、その他の行法（断食法・呼吸法・印相法・念力願望成就法・完了形暗示法）などを全く行じないグループがひそかに存在している真実が明らかになった時、他の会員の人たちは驚きの目で私たちを見ました。昌美先生が指導されている「我即神也」「人類即神也」の印と宣言を行じないで、「世界平和の祈り」だけ一つをひたすら祈っている私たちは、まるで異端者のように感じられたのです。しかし、私たちの行動は「世界平和の祈り」を唯一の行とするだけで、昌美先生への反対を必要以上に唱えるわけでもなく、白光真宏会の方針に反対するわけでもないことが次第に理解されるにつれて、私たちへの非難の声は消えてゆきました。

私たちは「世界平和の祈り」を祈っているのですから、誰も私たちに反対することはできないのです。「世界平和の祈り」に反対するということは、教祖の五井先生に反対することになるのですから、白光真宏会の会員の人たちは、私たちの「世界平和の祈り」に反対することは絶対にできないのです。

「昌美先生のご指導を通して五井先生は新しい教えを教えて下さっているのだから、昔の五井先生の教えに把われてはいけない」と説く人に対しては、「昔の五井先生の教えが、今は真実ではなく、すでに古い教えであるならば、五井先生の本をすべて焼き捨てたらよろしいでしょう」と私は答えます。

「昌美先生の教えと五井先生の教えとは同一の教えである」と説く人には、「それならば、五井先生の教えだけをやっても文句はないでしょう。同一とおっしゃるのですから」と私は答えます。

「五井先生の『世界平和の祈り』と昌美先生の『我即神也・人類即神也』の二つを合わせて行じることによって、より急速に人類の神性が開発され、世界平和が実現するのだ」と説く人には、「五井先生の教え、すなわち『世界平和の祈り』は不完全な教えであった、

とおっしゃるのですか？」と私は答えます。

「五井先生が『世界平和の祈り』を教えられた頃は、皆さんの心境が低く、まだ高い真理を理解することができなかったから、『世界平和の祈り』しか五井先生は教えられなかったのです。今は皆さんの心境が高くなったので、『世界平和の祈り』以上の『我即神也』の行を（神界の）五井先生から与えられたのです」と説く人には、次のように答えます、「それでは、『世界平和の祈りは最善の祈りであり、人類史上最後の祈りであり、世界平和の祈り以上の高い行法は無い』とおっしゃった五井先生の教えが間違っていたことにはありませんか？」と。五井先生の教えが過去の時代にだけに通用した教えだとしますと、信仰が根底からくつがえされます。誰が何と言おうと、私たちは五井先生の教えは永遠であると信じ、「世界平和の祈り」を信じます。

今はすでに、私たちへの無理解で不当な非難の嵐は去りました。これからは私たちは「世界平和の祈り」をひたすら祈りつづけ、「世界平和の祈り」を広めてゆけばよいのです。白光真宏会の会員の中からも、次々と私たちの考えに賛同して下さる方々が増えてきております。「世界平和の祈り」は五井先生の教えであり、神のみ心なのですから、私たちに同調して下さる方々が増えるのは当然の成り行きなのです。

「世界平和の祈り」は唯一最高の祈りなのです。「世界平和の祈り」以上の祈りや行法はないのです。今後とも、私たちとご一緒に「世界平和の祈り」を祈って下さいますようお願い申し上げます。